ちがしん 50年

ちがしん50年

もくじ

'82 浜降祭

ごあいさつ●2

営業区域・店舗配置図●3

空から見たちがしんのふるさと●4

茅ヶ崎駅、辻堂駅、田村・寒川、用田各周辺

ちがしん50年・年表●10

マイク・インタビュー●16

ふるさと散策●18

現役員●23

役員在任期間一覧・歴代理事長●24

営業のご案内　組織図●26

業績の推移●27

あとがき●28

ごあいさつ

当金庫は、昭和７年12月に、当時の産業組合法に基づいて、茅ヶ崎町における庶民の金融機関として、地元の皆様の強いご要望と熱心なご支援のもとに発足した「茅ヶ崎信用組合」がその前身であり、私もその設立発起人として組合の設立を推進した一人ですが、爾来50年、制度の基礎となった法律制度も変わり、現在は、信用金庫法による金融機関として、茅ヶ崎市、藤沢市、平塚市、海老名市、綾瀬市及び寒川町を営業区域とし、確固たる基盤の上に立って堅実な歩みを続けております。

この間を顧みますと、設立当初は世界的な恐慌による経済界の不況、満州事変から支那事変、太平洋戦争へとエスカレートした戦時下、悪夢のような戦後の混乱と荒廃、そして復興、ＧＮＰでは自由世界第２位という経済的高度成長、二次に及ぶオイルショック等を経験した、山あり谷ありの50年でしたが、当金庫は幾多の困難を踏み越えながらも、会員各位の格別のご支援と歴代役職員一同の強い団結とたゆまぬ努力とにより、着実に今日みられるような充実発展を遂げてまいりました。今ふりかえってみますと、誠に感慨深いものがありますが、当金庫をこれまでに築き上げてこられた諸先輩のご苦労と会員皆様のご協力に対しましては、心から敬意と感謝の意を表する次第であります。

ここに50周年の記念として、関係各位に感謝しつつ、当金庫の歴史の一端にふれながら過ぎ去った日々を偲び、思い出をまとめて当金庫の歩みをご覧いただくことといたしました。

私ども茅ヶ崎信用金庫は、これからも地元の繁栄と皆様方の幸福を念願し、業務内容なども常に改善しつつ、厳しい時代の波に対応しながら業績の拡充進展を図り、信用金庫本来の使命に邁進してまいりたい所存でございますので、今後とも変わらぬご支援、ご愛顧を賜わりますよう、切にお願い申し上げる次第でございます。

昭和57年11月

理事長　堀越　誠

営業区域・店舗配置図

地区総代

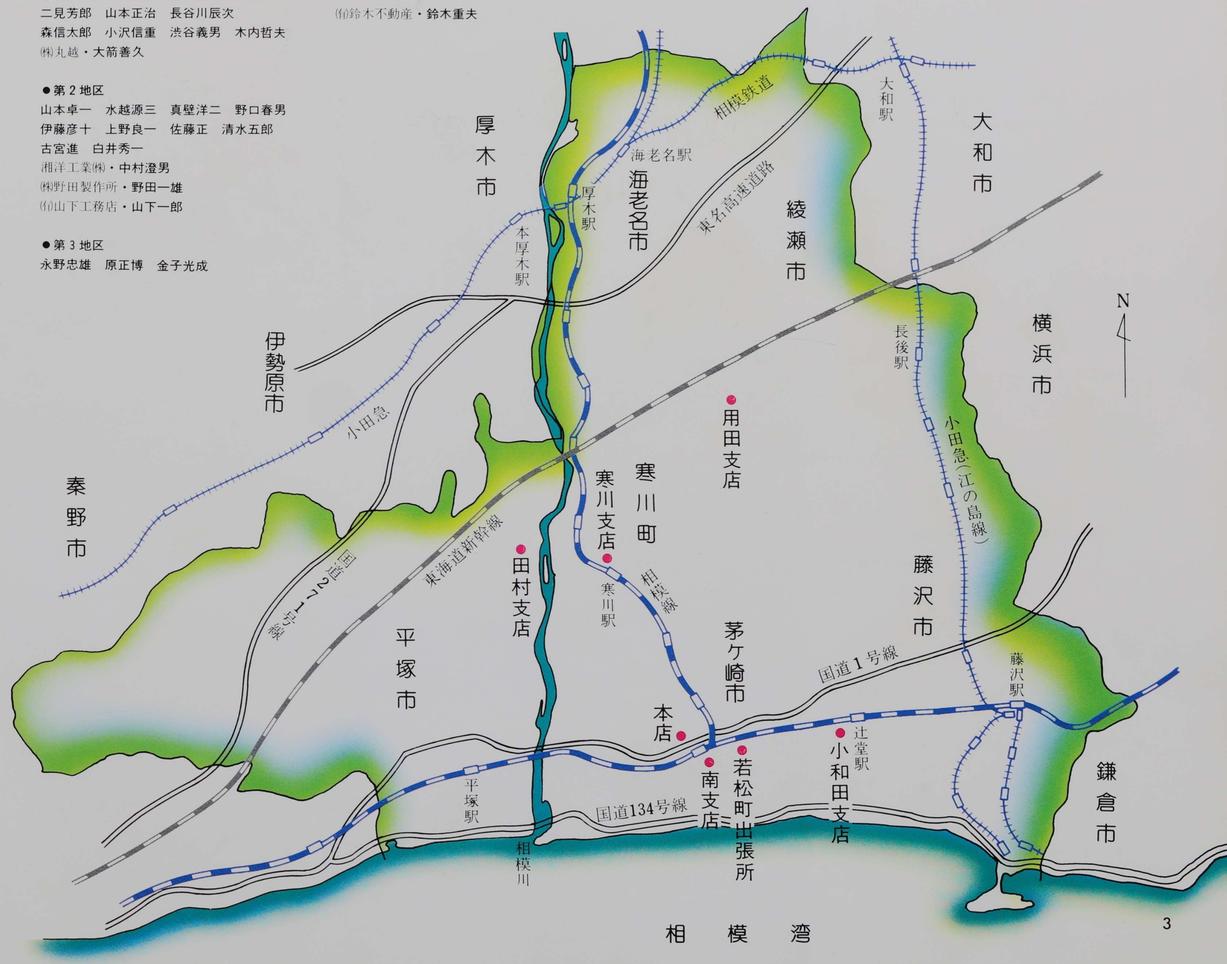
●第１地区
堀越誠　平野寿　小田切忠治　山本銀三
中野実　伊藤留治　難波直治　米山一夫
山口吉蔵　武藤良策　小島芳太郎　中川
文次郎　戸塚文比古　山田正一　石坂圭二
二見芳郎　山本正治　長谷川辰次
森信太郎　小沢信重　渋谷義男　木内哲夫
㈱丸越・大箭善久

●第２地区
山本卓一　水越源三　真壁洋二　野口春男
伊藤彦十　上野良一　佐藤正　清水五郎
古宮進　白井秀一
湘洋工業㈱・中村澄男
㈱野田製作所・野田一雄
㈲山下工務店・山下一郎

●第３地区
永野忠雄　原正博　金子光成

●第４地区
広田厳　櫃間正雄　飛弾武　東泰一　三留
幹夫　新門輝男　伊沢柾平　井出貞博
三春精機㈱・高橋春吉
㈱藤又・藤沢昇
㈲鈴木不動産・鈴木重夫

●第５地区
㈲新和製作所・加藤政雄
㈲川口商店・川口文吉



ちがしんのふるさと

その昔、茅ヶ崎は半農半漁のわびしい村でした。南部一帯は、あし・ちがや等が生い茂り、茅ヶ崎の地名もそのようなところから名付けられたそうです。内陸部は、のびやかな田園風景が展ける農村でした。明治31年、茅ヶ崎駅が設置された頃から、松林に囲まれ気候温暖で、災害もほとんどない静謐な環境が多くの人々に知られるようになり有数の別荘地・保養地として有名になりました。

東海道本線、国道1号、湘南散歩道路が東西に走り、国鉄相模線が北上する要衝の地として、近来、住宅や工場の建設も著しく、様相を一変しました。

そんな私達のふるさと、近代化が進む街町のたたずまいを、水と緑の豊かな環境を、空から訪ねてみました。

生誕の地 湘南茅ヶ崎

茅ケ崎駅周辺

本店営業部

茅ヶ崎市新栄町8－4
☎82－4121

南支店

茅ヶ崎市幸町2－24
☎85－2201

南支店若松町出張所

辻堂駅周辺

小和田支店

茅ヶ崎市旭ヶ丘2－32
☎87－0977

茅ヶ崎市浜竹3－2－32
☎82－4187

田村・寒川周辺

用田周辺

田村支店

平塚市田村6233
☎54－3366

寒川支店

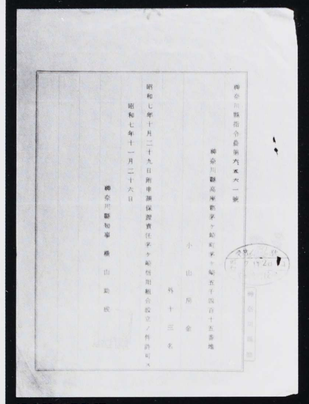
高座郡寒川町岡田112
☎75－3311

用田支店

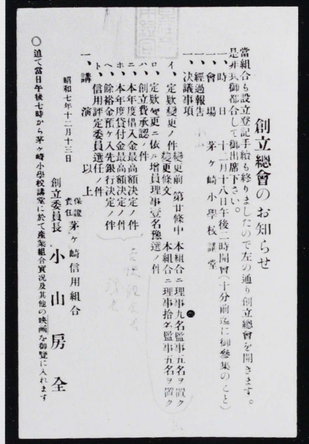
藤沢市用田584
☎48－7421

年表

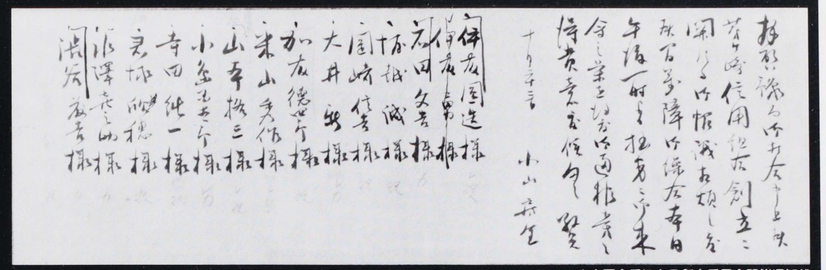
年月	当金庫	年月	＊印―神奈川県　その他は市関係
昭和	7.11 産業組合法に基づく保証責任茅ヶ崎信用組合設立認可 12 創立総会にて初代組合長に吉沢作造就任 理事　小山房全、山本格三、寺田純一、堀越誠、米山秀作、君塚義雄、伊藤圓造、岡崎信吉、加藤徳四郎 監事　水沢喜之助、大井新、渋谷藤吉、石田文吉、小島国太郎		7. 3 東京横浜電鉄株式会社、渋谷―桜木町間開通＊ . 5 大磯の坂田山心中事件＊ . 8 茅ヶ崎町米もらいたい会が請願書を提出
	10. 9 創立者理事　小山房全死去		10. 2 松下電器産業茅ヶ崎工場設立
	13. 9 保証責任茅ヶ崎信用販売購売利用組合に改組		13.11 白米食廃止週間実施＊
	19. 6 市街地信用組合法に基づく茅ヶ崎信用組合に改組		19. 6 相模鉄道相模線を国鉄が買収＊
	20. 9 庶民金庫の代理業務取扱い開始		20. 7 米軍機の爆撃により死亡10名、重傷12名、住宅焼失182戸
	21. 5 第２代組合長に米山秀作、専務理事に広瀬頼彦就任		21.－占領軍が南湖院を接収して進駐する
	24. 6 国民金融公庫の代理業務取扱い開始		24. 7 浜降祭を中心に盛大なカーニバルが行われる
	25. 4 中小企業等協同組合法に基づく茅ヶ崎信用協同組合に改組		25. 3 湘南電車が営業運転を開始
	26.11 信用金庫法に基づく茅ヶ崎信用金庫に改組 本店を茅ヶ崎市茅ヶ崎5565番地に移転		26. 3 馬入橋が雨と相模ダムの放流による増水のため通行止めとなる .10 市営球場が開場
	28. 3 預金量１億円達成		28. 8 昭和22年の市制施行より６年で、人口５万人を突破する
	31.12 中小企業金融公庫の代理業務取扱い開始		31. 4 復活第１回の大岡祭が行われる
	34.10 中小企業退職金共済事業団の代理業務取扱い開始		34. 3 西久保宝生寺の阿弥陀三尊像が国指定重要文化財となる
	35. 5 事務機械化として普通預金業務にNCR42号機を採用 7 本店新築落成		35. 1 首都圏整備法の工業地区指定地により、工場11社が進出 茅ヶ崎信用金庫屋上に愛の鐘が設置される
	36. 3 神奈川県税取扱店となる（現神奈川県収納代理金融機関）		36.11 首都圏市街化開発地域に指定
	37. 2 住宅金融公庫の代理業務取扱い開始 7 全国信用金庫連合会の代理業務取扱い開始 9 預金量10億円達成 10 南支店開店 11 創立30周年記念式典を挙行する		37.11 茅ヶ崎商店街連合会は全国に先がけて、業者間協定に基づく最低賃金を決定し、県労働基準局長に申請する .12 茅ヶ崎市、県下で初めての平和都市宣言をする .12 国道１号線沿いでガソリンスタンド建設ブーム起こる
	39. 8 日本不動産銀行（現　日本債券信用銀行）の代理業務取扱い開始		39.10 浜見平団地の第１期入居が開始される
	40. 5 第３代理事長に広瀬頼彦、専務理事に堀越誠就任 営業区域拡大（茅ヶ崎市、藤沢市辻堂・大庭・鵠沼、高座郡寒川町となる）		40. 3 県の鳥「カモメ」に決定＊ . 4 住居表示が改められ、町名が一部変更となり、共恵・新栄町などができる



組合設立免許証



創立総会通知状



小山房全氏による創立委員会開催通知状

昭和12年頃の海岸通り

創立翌年の正月記念撮影

昭和25年頃の駅前風景

旧本店事務所風景

昭和30年頃の銀座通り

現本店新築落成祝い

ちがしん50年

創業のころ

昭和４年、ニューヨーク株式市場の大暴落に端を発した世界恐慌の嵐は、わが国をも席捲、その深刻な影響は甚大なものがありました。一方、昭和６年には満州事変、７年には上海事変が勃発、国内は戦時色を強め、物情騒然たるものがありました。

経済界の深刻な不況、戦時体制へと向かう時代の流れは、いやが上にも産業資金を中央に集中させることになり、全国的にその打開と自力更生策が推進され、当地域においても「地方ノ資金ハ地方ニ蓄積、当町ノ産業を振興シ」という意図による信用組合の設立が、製糸業・純水館々長の小山房全氏主導のもとに構想されるに至りました。

信州小諸の大製糸企業であった純水館が茅ヶ崎に進出・開業したのは大正６年のことですが、それまでの当地は、ひなびた農漁村にすぎなかったので、大工場の設置は画期的な出来事としてもてはやされました。ここに純水館、ひいては小山房全氏と当地域との深い繋がりが生じ、地元の企業、身内の人という連帯感が、やがて信用組合設立へと結実していくのです。

小山房全氏は「不況克服は勤倹貯蓄と共存共栄を基調とし、地域産業の助成を生命とする産業組合法による信用組合を設立し、その使命達成を図ることが茅ヶ崎町の発展に寄与するものと信じ」町の有志（山本格三、米山秀作、加藤徳四郎、水沢喜之助、渋谷藤吉、寺田純一、大井新、君塚義雄、堀越誠、小島国太郎、岡崎信吉、石田文吉の諸氏）と相諮り、組合設立を推進しました。

昭和７年９月25日、最初の会合が、小山房全、山本格三、寺田純一、水沢喜之助、加藤徳四郎、の諸氏によって純水館で開かれ、18

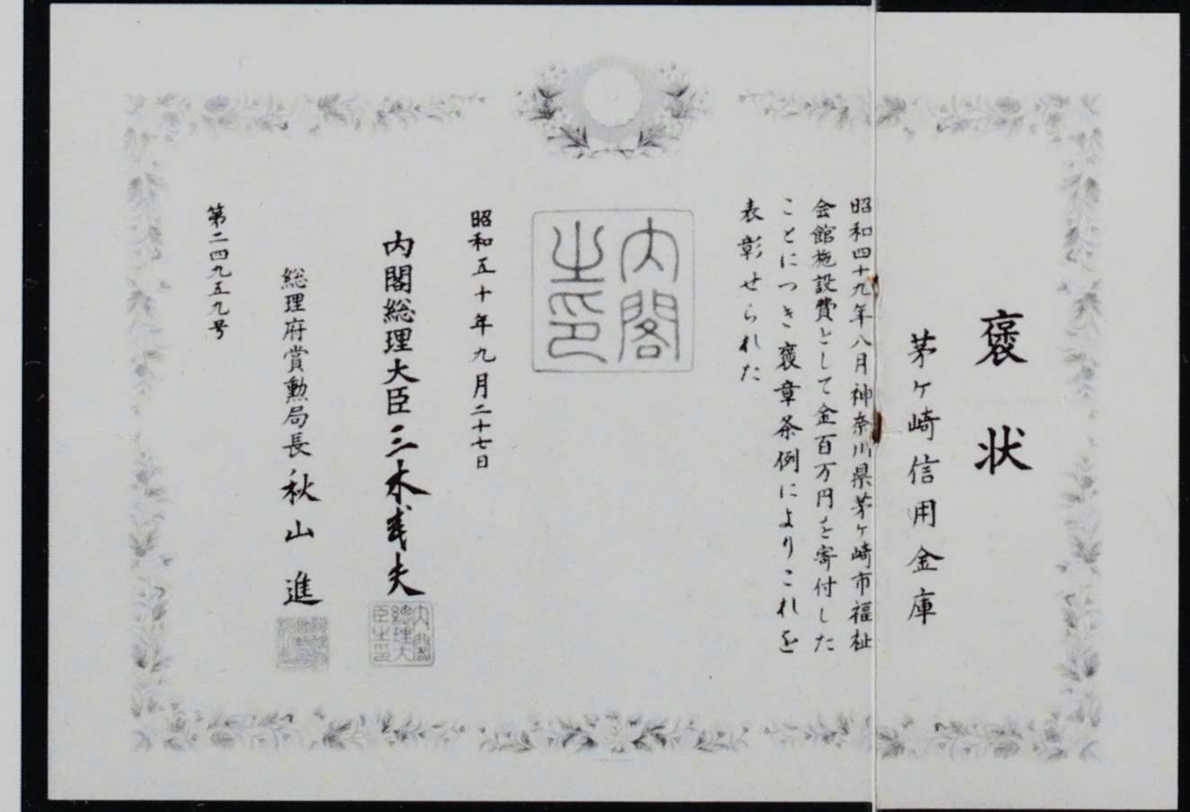
年月	当金庫	年月	*印 神奈川県 その他は市関係
昭和40.10 .11 .12	電話料金収納事務の取扱い開始 小和田支店開店 小規模企業共済事業団（現 中小企業事業団）の代理業務取扱い開始	40. 7 .12 .12	国鉄は出勤時の混雑緩和のため、跨線増設工事着手決定 茅ヶ崎機関区から蒸気機関車が撤去され、ディーゼル機関車となる 日本初の６車線、第３京浜道路開通*
43. 6	NHK受信料預金口座振替事務の取扱い開始	43. 2	14年ぶりの大雪で、交通が完全に麻痺する
44. 2 .10	日本長期信用銀行の代理業務取扱い開始 営業区域拡大（茅ヶ崎市、平塚市、藤沢市辻堂・大庭・鵠沼、高座郡寒川町となる）	44. 6 . 9	市内一円にアメリカシロヒトリ大量発生 相模川河畔スポーツ公園が完成 茅ヶ崎青年会議所が承認される
45. 9 .11 .12	普通預金業務オフライン集中処理稼動（外部委託） 堀越専務理事勲五等端宝章を授与される 水道料金収納事務の取扱い開始	45. 1 . 4 . 9	県立茅ヶ崎青少年会館完成 市福祉会館落成 交通難緩和のため、駅北口銀座通などで一方通行実施
46. 2 . 3 . 4 . 5 . 7 .11	電気料金預金口座振替事務の取扱い開始 預金量50億円達成 都市銀行との為替取引開始 日本興業銀行の代理業務取扱い開始 寒川町収納代理金融機関となる 寒川支店開店 広瀬理事長黄綬褒章を授与される	46. 7 .10 .11 .12	市文化資料館が開館 汐見台の海水淡水化臨海研究所に日本最大のテストプラントが完成 川崎の小学生、大気汚染ぜんそくで死亡* 陸上自衛隊、座間キャンプに移住* 茅ヶ崎交通遺児らを励ます会が結成 茅ヶ崎海岸に県青少年サイクリングコース完成
47. 2 . 5 . 6 . 7 . 8 .10 .11	自動車損害賠償責任保険の支払代理事務の取扱い開始 常務理事に平野寿就任 会員外貸出限度額の引上げ（30万円→80万円） 五日会の設置（常務役員・部店長会） 三水会の設置（代理・係長会） 金庫章を変更する 創立40周年記念式典を挙行する ガス料金預金口座振替事務の取扱い開始	47. 6 . 9 .12	市立病院が本村に移転 養護老人ホーム湘風園が開園 市制25周年を記念して、市の木に「アカシア」市の花に「つつじ」を制定 県道藤沢・寒川線のバイパスが開通 政府の調査により、千ノ川流域の水田土壌から高濃度のPCBが検出される
48. 3 . 4 . 5 . 6 . 7 . 8 .10	公庫住宅融資保証協会の代理業務取扱い開始 定期預金オフライン集中処理稼動（外部委託） 第４代理事長に堀越誠就任 専務理事に平野寿、常務理事に小田切忠治就任 市民クレジットローンの取扱い開始 営業区域拡大（茅ヶ崎市、藤沢市、平塚市、海老名市、高座郡寒川町及び綾瀬町となる） 会員外貸出限度額の引上げ（80万円→100万円） 東京手形交換所加盟（第一勧業銀行代理交換）	48. 2 . 6 .10 .11 .12	寒川町に大工場用地皆無となる* 提浄見寺境内に旧三橋家が移され民俗資料館として開館 光化学スモッグ対策などのため、市は県と合同で大気汚染を中心とした環境調査をはじめる ミッドウェー艦載機、厚木飛行場へ抜打飛来* 集中豪雨のため多大の被害が出る 茅ヶ崎駅北口周辺で、日曜日ごとに歩行者天国はじまる 横浜市で灯油・砂糖・チリ紙確保消費者決起大会開かれる*
49. 1 . 2 . 6 . 8 . 9	会員資格の拡大（資本金〔出資金〕が２億円までとなる） 年金福祉事業団の代理業務取扱い開始 事務合理化を図るため電子計算機導入稼動（ＦＡＣＯＭ 230―10） 社会福祉増進のため茅ヶ崎市に寄付 労働福祉事業団の代理業務取扱い開始	49. 1 . 5 . 7 . 8	県・横浜・川崎市の物価Ｇメン初出動* 丹沢山麓に県民の森オープン* 茅ヶ崎市役所庁舎新築完成、茅ヶ崎2340番地へ移転 茅ヶ崎市、第１回花火大会が行われる
50. 3 . 4 . 6	預金量100億円達成 融資業務オフライン集中処理稼動 社会福祉増進のため寒川町に寄付	50. 4 . 8 . 9	心身障害児通園施設（つつじ学園）開園 県、はじめて地方交付税交付団体となる* 中国友好訪問の県青年の船、横浜を出航*

堀越現理事長叙勲記念撮影

寒川支店開店祝典

創立40周年祝賀式典

社会福祉寄付感謝状


褒状
茅ヶ崎信用金庫
昭和四十九年八月神奈川県茅ヶ崎市福祉会館施設費として金百万円を寄付したことにつき褒章条例によりこれを表彰せられた
昭和五十年九月二十七日
内閣総理大臣 三木武夫
第二四九五九号
総理府賞勲局長 秋山進

オンライン開通式

名の創立委員候補者が選出されました。

その後紆余曲折を経て、10月20日、創立委員会を開催、参集者は小山、山本、寺田、君塚、水沢の諸氏で、当時の世情を反映して前途多難を思わせるものがありましたが、創立委員14名を選出することができました。さらに委員間の意見調整を行い、10月23日、再度創立委員会を開催、諸議案を決議し、組合成立へ向けての実行段階を迎えたのですが、12月14日の委員会で、組合長推選の件の協議に入ったところで、当然組合長になると誰しもが思っていた小山房全氏が、ご自身の事業の関係で組合長就任を固辞されるという思いがけない事態が生じ、大きな壁に突き当ってしまいました。

組合長のなり手がいないからといって、いたずらに時日を費やすわけにもいかず、手をこまねいてばかりもいられないので、当時茅ヶ崎町に居住されていた退役海軍少将の吉沢作造氏に就任を懇願することで衆議一致、小山、山本、堀越、米山、君塚、加藤、伊藤(勇)の諸氏が連日にわたり懇請に努めた結果、吉沢氏は次の条件を提示、委員全員の誓約書を受理することで就任を応諾したのです。

1．組合の借入については個人保証はしない。
2．出資金は一口しかもたない。
3．役員には融資しない。
4．全役員は私の言うことをなんでも聞くこと。

かくして12月18日、創立総会にて初代組合長に吉沢作造氏が選任され、保証責任茅ヶ崎信用組合の設立を見、当金庫50年の第一歩を踏み出したのです。

吉沢氏が提示された４条は、後日、組合長として組合を統轄し、組合業務を推し進める上で大いに効果があったということです。

このように、創業前夜にはなみなみならぬ諸先輩のご苦労があったわけですが、中でも小山房全氏については、当金庫今日の礎石を築かれた功労者として敬意を表し、50周年を迎えるに当り、その遺徳を偲ぶとともに、ここに深い感謝の意を表するものです。

試練の波をくぐり拡充期へ

創業後間もなく日本は戦時体制へ突入、金融の統制強化等、組合にとって厳しい時代が続きます。

昭和10年９月、創立者理事・小山房全氏逝去、13年９月、保証責任茅ヶ崎信用販売購売利用組合に改組、19年６月、市街地信用組合法に基づく茅ヶ崎信用組合に改組といった変遷を経て敗戦を迎えました。その後新円切り替え、金融封鎖といった試練の波をまともにかぶることになりますが、地元密着度の強かった私ども組合は、地域の皆様の暖かいご支援、吉沢組合長、米山専務等の御労苦により、この困難な時代を乗り切ることができました。

昭和25年４月、中小企業等協同組合法に基づく茅ヶ崎信用協同組合に改組。さらに26年には信用金庫法が制定され、同年11月、茅ヶ崎信用金庫と改組、新しく発展の端緒に立ったのです。

当時は、朝鮮動乱が一段落、経済にもようやく潤いが出始めた時ですが、金融は依然逼迫しておりました。地元の皆様のお役に立つことを心の張りとし、多くの方々の励ましを心の支えとして難局をくぐり抜けながら地域拡張、支店拡充期へと歩を進めて行きます。

昭和26年11月、本店を茅ヶ崎5565番地（現在地）に移転しましたが、30年までは茅ヶ崎電話局と同居の状態でした。

何かと手狭だった本店もようやく35年７月、現本店建物が完成し、営業の基盤も固まり、37年９月には預金量10億円を達成したのでした。そしてその翌月、当金庫最初の支店、南支店を開設し、順調な発展を見せるに至りました。

40年には二番目の支店、小和田支店を開設、営業基盤の拡大を図り、46年３月には預金量

年月	当金庫	年月	＊印―神奈川県　その他は市関係
昭和50.11	全国しんきん保証(現しんきん保証基金)の代理業務取扱い開始　会員外貸出限度額の引上げ(100万円→200万円)	50.10	県の緊急雇用対策はじまる＊
51. 6	平塚市収納代理金融機関となる 田村支店開店	51. 4	市道矢畑―萩園線が完成開通
.7	電子計算機レベルアップ（ＦＡＣＯＭ230―15）	.9	川崎市、全国初の環境アセスメント条例可決＊
52. 3	本店駐車場用地取得（本部ビル建設予定地）	52. 8	萩園に粗大ごみ破砕処理施設完成
.7	藤沢市及び綾瀬町(現　綾瀬市)収納代理金融機関となる 用田支店開店	.9	米軍偵察機が横浜の宅造地に墜落する＊
.9	業務推進委員委嘱制度設置 ちがしんジャンプ積金の取扱い開始　預金量150億円達成	.11	神奈川県・横浜市、円高対策として緊急融資制度新設＊
		.12	柳島の相模川流域下水道の左岸処理場の一部使用始まる
53. 2	会員外貸出限度額の引上げ（200万円→300万円）	53. 4	横浜スタジアム、オープン＊
.10	電子計算機レベルアップ（ＦＡＣＯＭ―Ｖ）	.10	茅ヶ崎市民の森を開設
54. 2	預金オンライン稼動（本店営業部ほか２支店） 内国為替の全銀データシステム加入	54. 1	南湖院跡に老人ホーム「太陽の郷」が完成する
.5	現金自動支払機（ＣＤ）設置（本店営業部ほか２支店）	.7	6 都県首脳会議（首都圏サミット）＊
.7	全店預金オンライン化及びＣＤ設置完了	.9	茅ヶ崎商工会議所が新栄町13―29に新築落成
.8	社会福祉増進のため茅ヶ崎市に寄付（マイクロバス）	.10	横浜新貨物線開業＊
.9	預金量200億円達成　厚生施設用地取得（長野県）	.11	国際児童年を記念して青少年の集いが開催される
55. 5	南支店若松町出張所開店（機械化店舗）	55. 3	有リン合成洗剤を４月から追放することが決められる＊
.6	会員外貸出限度額の引上げ（300万円→500万円） ちがしんレインボー預金の取扱い開始	.9	6 都県市合同の大規模防災訓練が実施される＊
.8	茅ヶ崎市民文化会館落成にブロンズ像寄贈	.10	茅ヶ崎市民文化会館落成
56. 4	社会福祉増進のため茅ヶ崎市に寄付（マイクロバス）	56.10	横浜市の米軍施設で燃料タンクが爆発、炎上＊ 平塚市で夜間、広報無線ミスから大規模地震警戒宣言の市内放送、市民騒然＊
.6	新型期日指定定期預金の取扱い開始		
.8	神戸博ポートピア'81旅行実施		
.10	会員資格の拡大（資本金〔出資金〕が４億円までとなる）		
.11	高田支店用地取得（58年４月開店予定）		
57. 3	預金量250億円達成	57. 8	台風10号により県下に被害続出＊
.4	電子計算機レベルアップ（Ｍ140―Ｆ　総合オンライン化計画）本部ビル新築落成（茅ヶ崎市新栄町10番４号）		

神戸ポートピア旅行記念撮影

茅ヶ崎市にマイクロバスを寄贈

新本部ビル

新事務センター

50億円を達成しました。45年以後、都市銀行の進出が相次ぎ、金融環境が一段と厳しさを増した中で、46年７月、寒川支店を開設し、高度経済成長と相俟って、当金庫飛躍の時代を迎えました。

この頃までの金庫を取り巻く環境は未だ地域性が色濃く残り、今では考えられないことですが、７月の浜降祭の時などは休日となり、一日お祭りを楽しんだものでした。

また、職場の雰囲気も少人数のため和気あいあいと家族的で良き時代でした。当時は事務機械化が現在のように進んでおらず、職員の仕事も苦労が多く、特に大みそかの深夜の集金業務等大変な面がありましたが、それも今は懐しく思い起こされます。

48年７月には、営業区域を４市２町（現在の５市１町）にまで拡大しましたし、51年６月に田村支店、52年７月に用田支店、さらに55年５月には、県下信金初の機械化店舗である南支店若松町出張所を開設するなど、店舗網の拡充を強力に推進して当金庫の躍進期を迎えました。

54年２月には、同規模信金としてはいちはやく自営オンラインを実現して、取引先に対しては、機能サービスの拡充に努め、また経営の合理化をすすめ、地域の皆様に愛される**ちがしん**として、今日に至っております。

社会のニーズに応えて

これまで、信用金庫の取引先は主として商工業者が対象であり、当金庫の顧客も、創業以来地元の企業、一般商店が中心でした。

40年代に入ってからは、首都圏のベッドタウン化その他地域開発の波が押し寄せ、地域における産業構造も拡大、変貌を遂げるに至り、私ども信用金庫も多面的な営業活動への対応が要求されるようになって、預金者、取引先の底辺も拡大、一般サラリーマンの方々にもご利用いただくようになりました。

このように、多様化する顧客のニーズに沿いつつ、地域の皆様の利便に応えてゆく一方、社会福祉事業等のお手伝いをとおし、地域の一員として、微力ながら、地元の皆様のお役に立ちたいと考えております。

中小企業金融の利用度は、今後ますます高まるでしょうが、他の地域金融機関である地方銀行、相互銀行等の中にあって、当金庫が発展していくためには、きめの細かい、密度の高い、地元住民との触れ合いこそが全てであると、50周年を迎えた今、役職員一同、心を新たにしています。

明日の**ちがしん**

当金庫50年の歴史は、創業の生みの苦しみ、揺籃期、飛躍発展期、そして安定成長期と、あたかも人生そのものを思わせます。そしてこの50年の歳月の歩みの中に、当金庫明日の発展の糧があると確信しております。それは、これまでどおり、毎日の積み重ねを根気よく実行してゆく、その平凡な努力、これに尽きると思います。

過去におけるよい点はこれをよりいっそう伸ばし、創意工夫を怠らず、いたらなかった点は反省材料として直ちに業務運営に反映させて参りたいと思っています。

地域の方々の全部と言わないまでも、大部分の方々のご支援を得てはじめて、本来の信用金庫の活躍を期し得ることであり、中小企業の経営の健全な発展と、市民の皆様の幸せにいかにお手伝いしていくかが、当金庫の課題といえます。

茅ヶ崎信用金庫は、これからも実のある店舗網の拡充を図り、積極的な機械化投資による機能サービスに努め、地域社会のお役に立つことを念頭において、創業100年に向けて誠実に、そして地道に営業活動を推進してゆく所存です。明日への第一歩を、私どもは力強く踏み出して行きます。

マイク 50信 インタビュー

茅ヶ崎信用金庫創立50周年を迎えるに際し、従来大変お世話になり、またご縁の深いお取引先の声をお聞きして過ぎし日を顧み、明日の**ちがしん**の糧とすべく、マイク・インタビューを試みました。

こちらちがしんです

――当金庫とお取引きいただくようになった当時のお話や、長いお付合いの中でお感じになった点、ご意見を忌憚なくお聞かせ下さい。

林義明氏

50周年おめでとうございます。

私が信金さんにお世話になったのは昭和29年のことですが、その2年前の27年に茅ヶ崎に移ってきて、資金の手当てもととのえ、予算も組んで、現在の仕事を始めようとした矢先、全額先払いで契約してた機械メーカーの倒産ですっかり予定が狂ってしまったのです。操業が2年遅れた上、数百万円の借金をかかえて途方に暮れていた私に対し、当時の理事長、亡くなられた米山秀作氏と、広瀬専務のご厚情とご支援により、無事に仕事を始めることができたのです。

私も信金さんの信頼に応えるべく、塙保己一ではありませんが、3時間も寝れば十分と、身を粉にして働きました。

その後もしげしげと信金さんに通いましたが、表面は厳しいようでも、なんとか都合がつくよう取り計らってくれました。お蔭で、やっと今日の丸三製紙となることができました。本当に感謝しております。今後ともよろしくお付合いを願います。

原正博氏

50年になりますか。

私は昭和39年秋からの取引きでして、当時、運輸の免許を取得して開業3ヵ月足らずの頃でしたが、割引いた手形が不渡りとなり、困りまして信金さんに相談に行ったんですが、その時、現在、本店営業部長の金子さんに「よし、うちで面倒見るから取引きを全部移せ」といわれ、それまでの他行との取引きを解消して、信金さんとのお付合いが始まったわけです。

そんなわけで、私にとって信金さんは恩義のある金融機関で、以来、事あるごとに、少しでも恩返しをしようとPRに努めています。

近頃は、私の同業者仲間でも、見栄を張って都市銀行等と取引きをしたがる人もいますが、私は「いざという時、助けてもらえるのは地元なんだよ、いい時ばかりでなく、悪い時にこそ手を貸してくれるのが、本当に思ってくれる金融機関で、それは、人間関係が信頼感の上に立っているからなんだ」と言っています。

それと、信金さんの大きな利点の一つに、職員の皆さんのほとんどが地元の人ということがありますね。これはお互いの信頼関係を築く上での一番のメリットではないでしょうか。

私は人に会えば「信金さんだよ」と紹介しています。

山口吉蔵氏

私が茅ヶ崎に出てきて商売を始めたのが昭和13年だが、その頃から比べると物価は今や7千倍から1万倍、お金の価値は全く変ってしまったのでピンとこないかも知らんが、当時のお金で400円、親戚の紹介で、さる金融機関から融資を受け、開業資金に充てたんだが、1年半経つか経たないうちに全額返した。借りる必要もないほど力もついたんだが、物資がだんだん乏しくなってきたんで、大量に物資を仕入れ出したんだが、そのうち物価がどんどん上がり、資金不足になってきた。そこで、当時町会議員をしておられた米山さんとのご縁で取引きが始まったんですから、もうかれこれ42年になりますか、なにしろ信用組合の頃からのお付合いですもんね。

当時、専務理事だった米山さんに「親類から借りると頭が上がらないが、組合からなら後で礼を言われるし、お互いのためにこそなれ、具合いの悪いことは何もない」と言われたことは、今でも忘れられない言葉で、それ以来ずっと金庫のお世話になり、今日の山鉄を築くことができたと、感謝しています。

経済事情の厳しい中で競争してゆく中小零細企業にとって、これからも親しみのある地元金融機関として、いろいろ相談にのってやって欲しい。私もできる限り応援するつもりです。

――今は金融機関の数も多くなりました。地元金融機関として、信用金庫のことをどのようにお感じになりますか、お聞かせ下さい。

小沢信重氏

十年ひと昔というんですから、50年の歳月には重みがありますね。

信金さんとは昭和23年頃からの取引きですから、かれこれ34年のお付合いになりますね。

その頃専務理事だった広瀬さんは、融資を申し込むと、柱は何本か、セメントは何袋か……と、厳しくチェックされましたが、2万円貸してくれまして、信金さんとの取引きが始まったわけです。

当時、茅ヶ崎の人口は2万5～6千でしたが、それが今では18万人になろうとしています。地元の発展とともに信金さんも発展してこられたことになりますね。

市内に金融機関はたくさんありますが、私どもの業界を見ましても、信金さんへの期待と信頼は大変なものですよ。これは歴代理事長を中心とした、役員・職員一丸となった結束力と努力がかち得たんだと思いますよ。噛んでみないと分からない、噛めば噛むほど味が出る、そんな感じがします。

私も信金さんとともに成長してきましたが、広瀬さんでしたか、「企業も大きくなったら一行では駄目だ、他行も開拓したほうがいい」という話もあり、他行とも取引きしましたが、信金さんから離れたことはなかったですね。

今日あるのも信金さんのお蔭と思っています。信頼し信頼される間柄、これが離れられない私の答えです。

今後とも可愛がって下さい。

東泰一氏

私が独立して寒川に店を開いた頃だったと思いますが、寒川商工会へ50万円の融資を申し込んだところ、信金さんへ行くように言われ、信金さんに足を運んだんですが、50万円ではしょうがないんではないか、ということで、200万か300万貸してもらい、取引きが始まったわけです。

昭和42年当時は、材木市況は火事相場といわれ、上がる一方でしたが、ある日、支店長から「東さん、材木は下がるかも知れませんよ、下がった時どうしますか」と言われたんです。私は下がるなんてこれっぽっちも考えていませんでしたが、それから2～3ヵ月もすると下がり始めたんです。それでも世間は景気のいい話ばかりで、業界でも先行き不安の話は聞かれませんでしたが、支店長のアドバイスで早目に手当てをしたお蔭で助かったことがあります。

金庫の人達とお会いするといつも思うんですが、いろいろ示唆していただいたり、金利情勢とか、対応策を授けてもらったり、気楽に話し合えることは、本当に嬉しいですね。

経済事情なども変わり、他行からの誘いもありますが、私ども中小企業にとっては地元の信金さん一本で十分だと思っています。

最後になりましたが、50周年おめでとうございます。

三好比良さん

主人の勤めが変ってここへ住んで22年ですが、一番最初に飛び込んだのがお宅で、その時とても親切でしたの。近いし、便利だし、何ですか行きやすいですね。それに皆さんいい人たちばかり。くどくないのがいいですね。

以前、ある銀行へお金を預けておいたんですが、子供が嫁に行くのでおろしに行ったところ、さあ大変、何に使うのか、何に必要なのか、米の通帳見せろと、しつこくて。私、思わず「お金をおろすということは、こんなにも苦しいことなんですか、お宅には二度としませんから」とタンカを切ったことがあるんですよ。本当に不愉快な思いをしました。その点お宅はそれ程でもなくていいですね。お世辞抜きに。私、くどくど、うるさいの嫌いなんです。

信金さんは普段着で飛び込んでいける雰囲気がありますし、やはり地元の心安さでしょうか、いつも変らない心で同じように接してもらえることは嬉しいですね。

額が多い少ないにかかわらず、同じ態度でやさしく親切に接してもらえることが、預ける人にとっては、一番嬉しいことではないでしょうか。いつまでもそんな信金さんであって欲しいですね。

――経済環境も厳しい時代になりましたが、どういう点に注意してゆくべきでしょうか。当金庫に対するアドバイス、ご意見等をお聞かせ下さい。

中川文次郎氏

私が役員をしていた当時も、貸出しがあまり伸びなくて、常に預貸率の向上という点に配慮してきましたが、これからも同じことが言えるのではないか。

50周年を節に気分一新、過去の蓄積を踏み台にしてさらに飛躍して欲しいと思います。

原氏(前出)日本人にとって、人間関係というものが大切だと、いつでも考えています。

そういう意味から信金さんとの信頼関係を第一に思い、人にも話をしてきたのですが、ただ残念に思うことは、融資のことに精通している外務関係の方が少ないということと、支店段階になると本店へのりん議に時間がかかることです。

他行に比較して話が早く進むことはまちがいないのでしょうが、やはり信金さんはスピーディで簡素なのが取得であってほしいと思います。

幸い、信金さんの職員の年令層は若いですし、私もプライドを持って信金さんを紹介していますので、大いに発展してもらいたいと願っています。

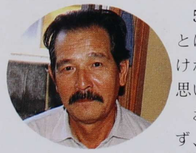
水沢喜重郎氏

資金量の伸びは、現理事長になってからずっとよくなったと思うが、県下の他の信金と対比して、順位は必らずしもよくなっていないわけだから、スケー

ルメリットをさらに追求して、この上とも発展して行ってもらいたいものです。

窓口の応待には常に注意して、いつまでも地元から愛される信金であって欲しい。

次の50年、100周年へ向かって、清新の気で力強く踏み出して下さい。大いに期待しています。


三好昇氏

50年の歩みということは大変なことで、かけがえのない財産だと思います。

おごらず、たかぶらず、われわれのささやかな財産を守ってくれる信用金庫が好きですね。頑固といったら語弊があるかも知れませんが、50年間、手造りの味といいますか、気取らない姿勢を守りとおしてきた信金さんは素晴らしいと思います。地域の優等生という気がします。

これからは、50年の基盤を足がかりに、いかに時代の流れに順応してゆくか、若い人にも魅力あるビジネスの場にしてゆくことも大事でしょうし、これまでの金融一本槍ではなく、もっとトータルな、例えば何事によらず悩みごとの相談を受けるとか、住民との絆を強める施策を推進して、地域にがっちりと食い込んで行って欲しいですね。

ある大手書店が、教育機関(家庭教師派遣)に進出しましたが、これまでのワクを破ったアイデアを打ち出したことは、一見突飛のように見えるが、実は練りに練られたアイデアで、さすがと感心させられます。

竹や蓮が地下茎を張りめぐらし、思わぬところから芽を出すように、地域に根ざした信金さんの発展を、心から願っています。

――支店の経営は、当金庫にとっても重要な意味をもっていますし、地元の方に対して果たす役割も年々大きくなってきたと思いますが、皆様方には、ご当地の当金庫支店の在り方はどのように映っているのでしょうか。

高梨与四郎氏

50周年ですか、平塚市と同じですね。田村に店を出されてから6年経ちましたか。早いもんですね。

田村地区にもいろんな金融機関が出店しようとしていたようですが、信金さんはちょうどいい時期に開店されたんじゃないですか。地元商店会も助けてもらって、皆よろこんでいますよ。ここの商店会も中小零細企業が多くて、未だ力不足ですが、そういった者たちの味方になってくれる信金さんの進出、これ以上のものはないと思います。

もともと先発金融機関とのつながりの濃い当地へ出てこられて大変だったでしょうが、これからはよくなるんじゃないですか。この地区は、ご存知のように歴史の古いところですが、ここ15～6年くらいで、7対3の割合いで流入人口の方が多くなって、だいぶ変りましたし、新幹線との関連や、市街化推進などで、今後大きな発展が期待されています。

こうした流れの中で、信金さんは私達に密着した、中小企業の金融機関として、ますます発展するんじゃないですか。やっぱり何といっても地元の信金ですよ。私も応援しますよ。頑張って下さい。

西山貢氏

そうですか、50周年ですか、おめでとうございます。

ここ用田地区は、もともと農協しかありませんでしたので、信金さんが来られて皆重宝していますよ。私は、以前は相互銀行と取引きしておりましたので、ここへ出店させようとしたことがありましたが、実現しませんでした。

ここは生活環境としてはいいところで、資産のある人も多いんですが、田舎の人は金を借りることをいやがるんですね。支店長に「どんどん使わせるように相手を説得する必要がある」とよく言うんです。私自身も、会合の時などに、人に利用を勧めています。

今は相当親しみある話合いができるようになったわけですが、これからさらに商店会等と親しくなり、いろんな相談にのってもらえる信金さんになって欲しいと思います。

●インタビューをおえて

できるだけ大勢の方々のご意見を拝聴したかったのですが、紙面が限られていますので、皆様の声を11氏の方々に代表していただきました。お訪ねした先々で温かい励ましのお言葉をいただいたのは、身に余る幸せと感激いたしました。

このインタビューをとおし、当金庫に対する信頼と期待の大きいことを、改めて痛感しました。関係者一同、さらに一段の努力と精進を決意した次第です。

貴重なご意見、ありがとうございました。

お話いただいた方々

小沢信重	㈱大和工務店会長
高梨与四郎	みきや精肉店経営
中川文次郎	㈱山中屋取締役
西山貢	西山米店経営
林義明	丸三製紙㈱代表取締役
原正博	湘南運輸㈱代表取締役
東泰一	東木材㈱代表取締役
水沢喜重郎	㈱水沢製材所取締役
三好昇	学習塾経営
三好比良	〃
山口吉蔵	㈱湘南山鉄代表取締役

(敬称略・五十音順)

ふるさと散策

茶屋町で足を休め、馬入川を渡船で渡り西へ急ぐ者、長旅の末一里塚に辿り着き、一息いれて江戸へ向かう人――旅人が往き交った東海道沿いの「ふるさと」の在りし日の面影を訪ねて、車が往き交う街道筋を歩いてみた。

茅ヶ崎村周辺／寛文4年(1664)漁場争論幕府裁許絵図より(小和田・水鳴伊一郎氏蔵)

明治初年の馬入の渡し　明治19年に架橋されるまで渡船に頼っていた(茅ヶ崎市蔵)

馬入の渡し

東海道も箱根の山を越え、小田原、平塚を経て馬入川（相模川）を渡ると茅ヶ崎、もう江戸は近い。現在、相模川には馬入橋が架っているが、江戸時代は渡船の往来しきりで、広重描く東海道五十三次そのままの風景だったに違いない。

茅ヶ崎はそもそも平塚宿と藤沢宿のほぼ中間の立場（休憩場所）にすぎなかったが、同じ立場でも宿場的色彩の濃い「立場」であった。というのも、馬入川の増水・氾濫のたびに川止めとなり、そのつど一服茶屋変じて簡易宿泊の旅籠となるからだ。川を渡るということが往時、どれほど大変だったか、車でスイスイ行く現代人には想像もつかない。

とはいえ、川を渡るには不便であっても、上流下流間の物資の輸送は古くから盛んであった。上流の海老名に国分寺跡が残っているが、その大量の礎石が水上輸送によるものだと推定されているのをみても、奈良時代からかなりの“物流”があったと思われる。

『茅ヶ崎市史5』によると――明治19年、馬入橋が架かるまでは渡船による渡しで、交通量の最も多かった東海道であった上、参勤交代・朝鮮通信使参府の往来などもあって、極めて重要なものであった。

柳島村と平塚の須賀村は定掛村と呼ばれ、船頭2人が乗る漁船25艘をいつでも役立てられるようにしておくことが求められており、

海老名国分寺講堂跡　碑の右手前にあるのが巨大な礎石

相模川旧橋脚　大震災の折　水田から突如杭が出現した

源義頼創建になる鶴嶺八幡宮　大銀杏は30m余の高さだ

恐らく参勤交代の際には、全部の船を狩り出すようなことになったであろう。

外様大名は4月、譜代大名は6月または8月であったから、この時期の前後は通行が頻繁であり、渡船場の混雑と渡船に要する人手は並大抵なものではなかったはずである。

こうした渡船業務への援助を課せられたのが助郷村で、常時、業務に携わるのが定助郷といわれ、馬入村と萩園・下町屋・今宿・松尾の5ヵ村があてられた。定助郷村は水主(船頭)を務めるのが役目であった――とある。

往時の賑わいと渡船労務の苦労が偲ばれよう。

柳島湊と藤間家

江戸時代、柳島には湊があり、海上輸送が盛んに行われていたが、様相を一変した現在では、往時を偲ぶよすがもない。僅かに大船主であった藤間家にその名残りをとどめているにすぎない。

藤間家は東海道の南約2キロ、現在の柳島小学校北側の住宅街の中に建っていた。門を入ると庭はうっそうたる緑におおわれ、珍しい熱帯樹林も目につく。ご当主藤間雄蔵氏は以前東京の会社に勤めるサラリーマンだったが、現在自宅で塾を経営している、脱サラのおひとりだ。

柳島湊は今の柳島小学校の南あたりで『新編相模風土記稿』には「近村の米穀皆此湊より出船す。四百石積の船三艘、小船四艘を懸置き運漕に使す」とある。

また、上流の津久井地方産出の薪炭・材木も船で運ばれるなど、柳島湊は、対岸の須賀湊とともに、相模平野の物資の集散地であったのだ。

藤間家の玄関先にある家訓碑　5代前の当主柳庵の手になる

ご当主から数えて5代前の当主藤間柳庵は幕末から明治にかけての人で、柳島の名主もつとめ、かたわら文筆をよくした。政情不安な当時の動向を持ち前の広い見聞で書き記した著書は、十指にのぼっている。

「最近、こんなものを下さった方がおりましてね」と、雄蔵氏が差し出した額に入った写真は、柳島の領主戸田五助（肥後守勝強）の肖像写真であった。撮影したのは佐久間象山だとか。戸田氏の子孫がわざわざ持参したのだそうだ。

柳庵は、維新後も領主であった戸田氏の身を案じ、物心両面にわたる援助を惜しまなかったという。因みに、写真の原版は代々戸田家の家宝となっている由。

同家には、柳庵の残した家業の道具類や古い調度品等を蒐めた資料館がある。玄関脇には、柳庵が子孫に与えた家訓碑も残っている。

旧相模川橋脚から鶴嶺八幡へ

東海道に戻ろう。馬入川支流の小出川の東岸、下町屋橋のたもとに立ち並ぶ工場の一画にある公園の池に、杭が5～6本離ればなれに立っている。旧相模川橋脚だ。

頼朝の重臣稲毛重成が、亡妻追善のために建久9年（1198）架けた橋脚として、国の指定史跡となっている。関東大震災の折、土地の隆起によって忽然と現れた代物だ。池にはフナでもいるのだろうか、子供達が三々五々釣り糸を垂れていた。

旧橋脚を後に東へ向う。大きく迂回した道を辿って行くと鳥井戸橋に出る。広重の「南湖の左富士」はこの辺りからの眺望というが、今は街並みが遮ってその面影はない。

橋の左手に「鶴嶺八幡宮参道」の石標と鳥居が見える。道は昔のままで狭いが、両側には松並木が延びている。7～800mもあろうか、見事な眺めだ。この松並木は、鶴嶺八幡宮が慶安2年（1643）、幕府より御朱印状を贈られたとき、南大門馬場420間の左右に植えたものというから、333年の歴史の重みに耐えてきた、残り少ない街道筋の松並木だ。

茶屋町から一里塚へ

鳥井戸橋を渡ると「立場」の中心茶屋町だ。現在はごく普通の国道沿いの住宅地であるが、旧脇本陣であった江戸屋（重田家）は、今も当時の場所にでんと構えておいでだ。家屋は関東大震災後のものだそうだが、門構えや造作は当時をほうふつとさせるに足るものだ。

享和元年（1801）2月、太田蜀山人は江戸屋に立ち寄った際のことを「……江戸屋という江戸ッ子にとっては懐しい名前の茶屋があるので入ってみた、評判どおり生きのよい鰹の鱠が運ばれた、次いで運ばれた酒の肴に食べてみると、確かにどこにでもあるというものではなくすばらしい味である、さらに松露という茸を入れた吸物も珍しかった、ご飯は漆の色がやや古びた椀に山盛りに盛りつけたのが出た、さすが田舎びていて飾り気がなくてよかった……」（茅ヶ崎市史5より）と記している。

東海道を旅した江戸ッ子が、南湖では新鮮な鱠が一番だと、くちぐちに言ったという、その評判のほどがうかがえようし、当時の風情の一端も偲ばれる。

重田家の手前のガソリンスタンドを右に曲がると真言宗の寺、金剛院がある。明治の頃はこの辺りが茅ヶ崎の中心地で、役場や小学校（琢学舎）や警察などが置かれていた。

金剛院境内の一隅に、琢学舎の青年教師、若松（幹雄）先生の墓碑が鎮まりかえっていた。

若松教師は、学年末試験に生徒13名が落第した責をとって割腹自殺を遂げたのだ。その4年後、学友らの手によって墓碑が建てられたが、同寺では、現在でも命日の5月20日には墓前祭をして霊を弔っているそうだ。

金剛院の隣りに江戸時代からの共同墓地があるというので行ってみた。敷地内には古ぼけた地蔵堂もある。墓石を見るとずいぶん古いものが多い。元禄時代のものもあった。ここには街道で倒れた人の墓もある。地蔵堂を管理している青木さんの話だ。

墓地の隅には馬頭観音もあった。街道での輸送を馬に頼ること極めて大きく、それだけ馬を大切にしていたであろうことが偲ばれる。

東海道を先に進もう。現在の警察署の前には、僅かだが松並木が残っている。市役所前を過ぎると右手に一里塚が立っている。かつて一里塚は道の両側にあったそうだが、今は一つしか残っていない。江戸日本橋から数えて14番目の道標である。あと江戸まで14里というわけだ。

江戸へ急ぐ当時の旅人は、この道標をどんな心で眺めたことだろう。うかがい知る由もなく一里塚を後にした。

茅ヶ崎立場の脇本陣江戸屋（重田家）は往時の場所に現在も建っている

青年教師若松幹雄の墓　墓石の字は友人小笠原東陽による

金剛院に隣接する共同墓地内にある地蔵堂脇には江戸時代の小さな墓石が並んでいる

共同墓地の片隅には馬頭観音も

一里塚の石標　江戸日本橋より14里目だ

国道1号線・茅ヶ崎警察署前に今も残る東海道の松並木

脇道探訪

街道筋から離れ、海岸べりへ足を運び、さらに内奥部へと足をのばしてみた。

幕末砲術場挿話

湘南海岸の一画として賑わっている茅ヶ崎の海岸は、江戸時代には幕府の砲術場として、とくに黒船来航以来、重要な存在であった。

現在、この砲術場記念碑のすぐ脇を湘南道路が走っており、碑のまわりは雑草が生い茂り、往時を偲ぶよすがもない。大砲を運ぶために造られたという鉄砲道は今も残ってはいるが……。

東海岸５丁目の道路端に、佐々木卯之助の追悼碑が立っている。天保年間に幕府の大筒役で砲術場の責任者であった佐々木氏は、砲術場内の空地での耕作を願い出た、茅ヶ崎近在の名主たちの請願を聞き入れ、耕作を認めたかどにより八丈島への遠島重罰に処せられた。農民を庇い、罪を一人でかぶった農地解放の義人として、明治31年、地元の人々の手によって、追悼碑を砲術場の一隅に建てられた。しかし、碑は二転三転し、現在は、鉄砲道沿いに移されている。

東洋一のサナトリウム南湖院

かつて東洋一を誇ったサナトリウム「南湖院」の広大な跡地には、老人ホーム「太陽の郷」と県立高校が建ち、周辺はぎっしり住宅が軒を並べている。

大岡家の菩提寺　浄土宗浄見寺山門

大岡一族の墓所 初代忠勝より13代までの約60基が並ぶ

創立者高田畊安は、文久元年(1861)丹後に生まれ、明治22年(1889)帝国大学医科大学を卒業、ベルツ博士、青山胤通博士に師事、29年駿河台に東洋内科医院を設立、３年後にその分院として南湖院を開設した、と『茅ヶ崎市史２』に記されている。

明治32年の第１病舎開設以後、つぎつぎと病舎が増設され、写真「同院平面図」で見られる昭和11年の頃には、病室158、入院患者１日平均199名を数え、開院後同年11月までの患者総数は18,831名、うち結核患者は13,113名を占め、その他腸チフス、赤痢などの伝染病患者も収容。外来患者は69,792名、耳鼻科・歯科も併設されていた、と同市史に記載されており、規模と設備と人気のほどを伝えている。

南湖院の名声を慕って多くの著名人がここで療養生活を送っており、詩人の八木重吉、作家の国木田独歩の名も見える。

明治41年、37歳の若さでここで亡くなった独歩の碑が、今は市営球場の裏手に建っている。碑には「渚」という詩の一節が刻まれていた。

永却の海に落ちてゆく
世世代代の人の流れが
僕の前に横たわっている

大岡越前守眠る浄見寺

茅ヶ崎駅から北東の方向、車で10分ばかりのところに小高い丘がある。南側はゴルフ場になっているが、その北側に大岡家菩提寺の浄見寺がある。

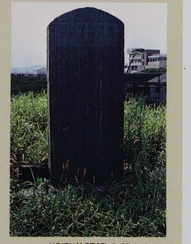
山門をくぐり、左手の石段を上がってゆくと、県指定の天然記念物「オハツキイチョウ」が亭々と聳えている。オハツキイチョウは、葉上にギンナンがなる変種だという。

大岡家の家紋がイチョウの葉を用いているところから、浄見寺建立当時に植えられたといわれている。

石段を上がったところに一族の墓が、手前から２代、３代……と整然と並んでおり、その中でひときわ目をひくのが、名奉行と謳われた大岡越前守忠相の墓である。毎年４月の大岡祭の大名行列は、浜降祭ともども湘南名物の一つになっている。

境内の一隅には民俗資料館として、江戸期の農家の標準的造りである、旧三橋家が復元保存されている。

『南湖院一覧』(S.11年刊)の巻末に付された東洋一のサナトリウム南湖院絵地図



湘南道路脇の草むらに建つ幕末砲術場記念碑

義人佐々木卯之助の追悼碑　鉄砲道の一隅に

南湖院で歿した独歩の碑　市営球場の裏手に

相模の国の一ノ宮・寒川神社

広大な社域には古松、大樹が生い茂り、相模の国の一の宮として古来から信仰を集めてきた風格と佇まいを今に伝えている。

かつて、寒川神社の神領神域は、現在の寒川町一円と有馬村南半分、御所見村西半分を含む地域に及んでいたという。

祭神は、寒川比古命、寒川比女命の二柱とされている。社殿は、聖武天皇の神亀４年(727)建立とも称徳天皇の天平神護元年(765)とも言われるが、修理・修復がたびたび行なわれ、明治28年に至って社殿造営がなされ、その時の旧本殿は倉見大神の社殿に移されている。

明治28年造営の社殿も、大正12年の大震災で全壊、ために14年工事に着工、昭和７年、現在の社殿が建立された。

５月５日は国府祭、例祭前日の９月19日には流鏑馬、７月15日は浜降祭が行われるが、中でも茅ヶ崎海岸に集結・渡御する浜降祭は、勇壮な祭りとして近隣に名をとどろかせている。

関東一の規模をもつという二の鳥居を仰ぎ、往昔を偲びながら「ふるさと散策」最後の足をバス停へと運んだ。

現役員

専務理事　平野 寿

理事長　堀越 誠

常務理事　小田切忠治

理事　山本銀三

理事　中野 実

理事　山本卓一

理事　伊藤留治

理事　難波直治

理事　米山一夫

監事　山口吉蔵

監事　武藤良策

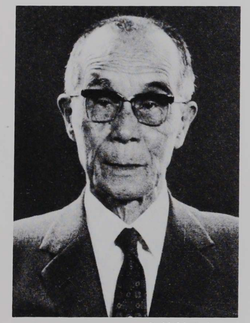
監事　小島芳太郎

役員在任期間一覧／歷代理事長

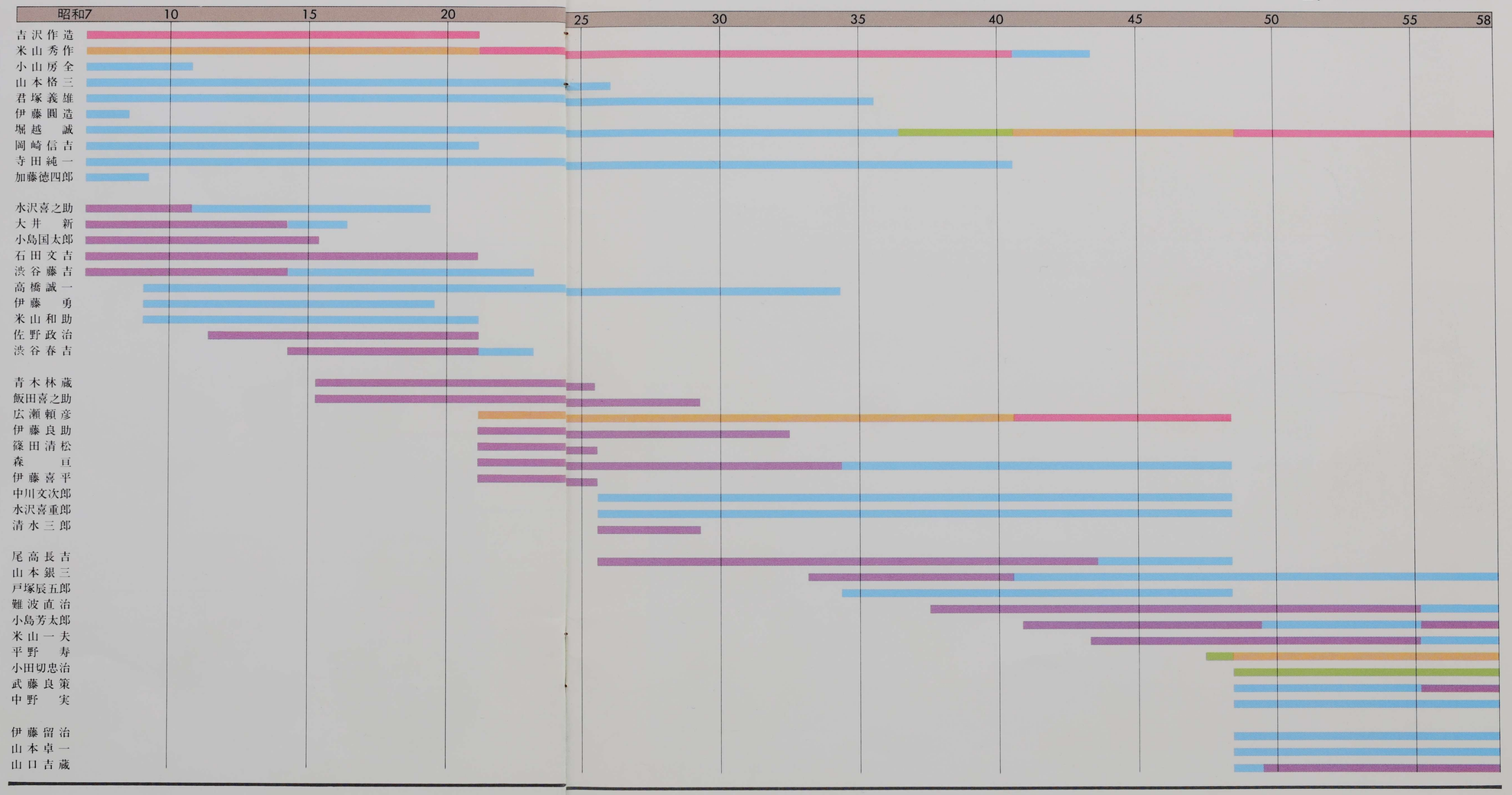
創立者　小山房全

初代組合長　吉沢作造

第二代理事長　米山秀作



第三代理事長　広瀬頼彦



営業のご案内

◉預金業務

総合口座

普通預金・定期預金・自動融資が１冊の通帳にセットされた便利な口座です。キャッシュカードがご利用できます。

普通預金

出し入れが自由な利息のつくサイフです。

当座預金

小切手を使ってお取引きいただく預金で、安全かつ便利です。

通知預金

まとまったお金を一時的（７日以上）に預けておく有利な短期預金です。

納税準備預金

納税に備えてのご預金で、高利回りです。

定期預金

利息が最も高く、手軽に利殖できる預金で、次の中からお選びになれます。

普通定期預金／自動継続定期預金／期日指定定期預金／新型期日指定定期預金／総合口座定期預金

定期積金

目標にむけてコツコツ積立て、満期にはまとまったお金が受取れるちがしんの定期積金は、計画貯蓄に最適です。

レインボー預金

定期積金とボーナスからの定期預金で目標に合わせ、資金を計画的につくる預金です。

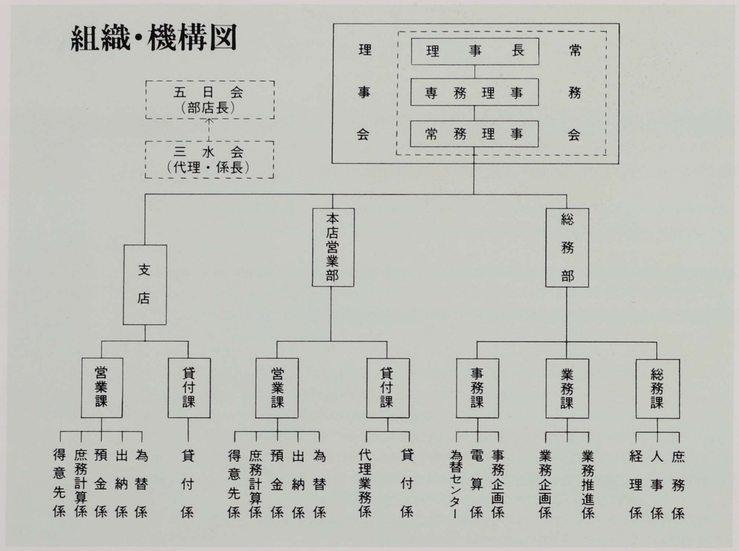
◉融資業務

割引手形

お取引で受取られた手形を即刻資金としてご利用ください。

手形貸付

仕入れ資金・継ぎ資金等、短期の運転資金にご利用ください。



証書貸付

事業の拡張、工場の建設等長期の設備資金にご利用ください。

各種ローン

住宅ローン……住宅新築、土地・マンション購入資金に

個人ローン……健康的・文化的な生活を営むために必要な資金に

教育ローン……入学金・授業料・施設費等学校納付金資金に

その他必要に応じてご相談ください。

◉為替・その他の業務

内国為替

全国約19,000の金融機関の店舗がオンラインで結ばれており、どこへでも送金・振込みができます。

代理業務

全国信用金庫連合会／国民金融公庫／住宅金融公庫／中小企業金融公庫／日本興業銀行／日本長期信用銀行／日本債券信用銀行／自動車損害賠償責任保険の保険金支払事務／中小企業退職金共済事業団／年金福祉事業団／中小企業事業団／労働福祉事業団／財団法人公庫住宅融資保証協会／社団法人しんきん保証基金

現金自動払出機（キャッシュサービス）

通帳・印鑑不要、カード１枚・30秒で預金を引出せます。

給与振込み・年金自動振込み

毎月の給料やボーナス、国民年金、厚生年金など各種年金のお受取りが、簡単な手続きであなたの預金口座に自動的に振込まれる便利なしくみです。

自動支払いサービス

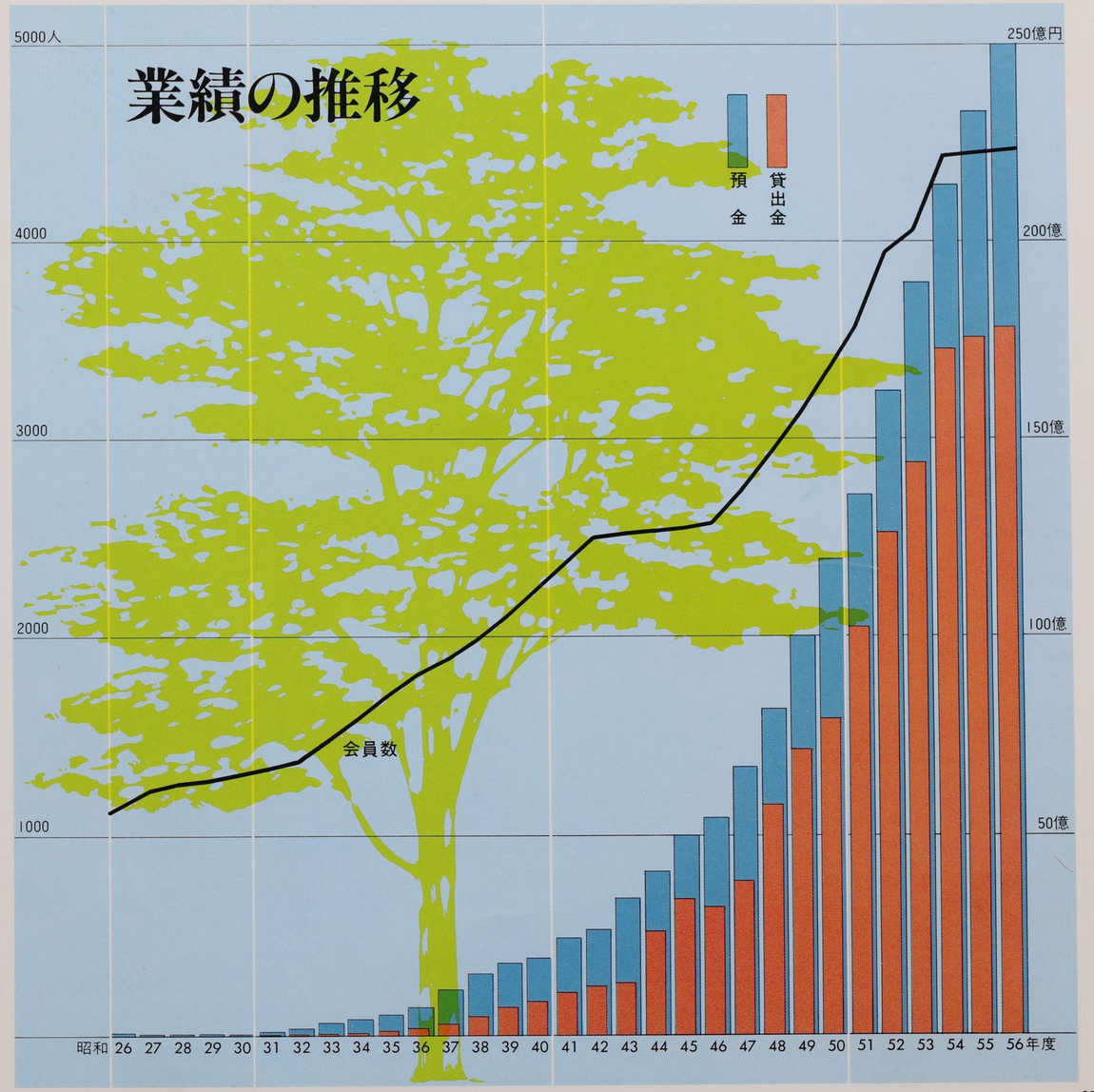
電気・電話・水道・ガス料金・ＮＨＫ受信料、税金、クレジットカード利用代金等が指定口座から自動的に支払われます。

クレジットカード

VISAカード／UCカード／JCBカード／日本信販

貸金庫

あなたの大切な財産をちがしんがお預りします。



写真・取材協力
茅ヶ崎市役所
茅ヶ崎商工会議所

あとがき

50年と一口にいいますが、それは長い歳月であり、当金庫にとって大きな節であることは申すまでもありません。

この長い期間の歴史を記述するのは紙数に制限もあって、多くを割愛せざるを得ませんが、先輩各位のご苦労を偲ぶとともに、楽しい過去の思い出を省み、発展の跡を辿ることによって過去の経験を未来に生かすこともできましょう。そしてこの小冊子が、地元の繁栄とともに発展してきた当金庫の姿を、皆様方にご理解していただく上に少しでもお役に立てば幸せです。

わかりやすく、楽しく見ていただけることを念願しつつ編集いたしましたが、取材や資料収集に当って、あまりにも広範囲であることに戸惑いつつも、あれも載せたい、これも捨て難いという思いをいかんともしようがありませんでした。

このような簡潔な形にまとめましたので、記録としてはご満足いただけない点も多々あるかと思います。

この記念誌をご覧いただいて、さらに皆様の感懐をひろげていただき、皆様の思い出の中で補足していただけることを念願しております。

編集に当ってご協力いただいた方々には、ここに厚く感謝し、御礼申し上げます。

昭和57年11月

50周年記念誌編集委員一同

ちがしん50年
昭和57年11月発行

編集・発行　茅ヶ崎信用金庫　神奈川県茅ヶ崎市新栄町８番４号　**制作**　大日本印刷株式会社ＣＤＣ事業部年史センター　**印刷**　大日本印刷株式会社　東京都新宿区榎町７番地

茅ヶ崎信用金庫